

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201042		
法人名	有限会社かけはし		
事業所名	グループホームかけはし		
所在地	福岡県福岡市西区愛宕南2丁目13番23号		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果確定日	令和5年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和5年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

理念の1つである「利用者の満足を実現する」の下、煙草を吸いたい、買い物に行きたい、外の大きな風呂に入りたい等、したい事をして頂けるように計画している。
在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、薬局との連携が緊密なため、日常の健康管理が充実していると同時に、最期までここで安心して生活できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームかけはし」は、長年にわたり地元の医療に携わっていた産婦人科医院(現在は閉院。4階建て)の1・2階に1ユニットずつを配置する2ユニットの事業所で、開設後すでに19年目を迎えている。地下鉄姪浜駅や西区役所からほど近く、利便性は良いが、付近は閑静であり、庭などに緑も多い。地域との馴染みはそのまま引き継がれ、近隣からの利用者も多い。「自由を選択し、自由に生きる」という理念の柱は、開設者(亡くなった元院長)の思いを表している。個別ケアにも力を入れており、また近隣住民の信頼も厚く、交流も熱心に取り組んできたが、コロナ禍のため、やむを得ず面会や行事、外出などさまざまな場面で制約が生じている。コロナが落ち着きを見せ、運営推進会議も再開の予定があるなど、これからは改めて動き出そうとしているところがある。今後地域福祉の支えとなる立場での活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のかげはし理念は各階の廊下に掲げている。コロナ禍もあり全員で唱和は今年度はせず各自で目を通す事で共有の形となった	「自由に選択し、自由に生きる」という理念の柱がある。理念は各階の廊下に掲示、常に目に触れることで職員にも浸透している。理念は日常の支援全般にわたる基盤になっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に出掛けることは少なく、他の機関との交流は感染防止対策にて少なかった。ポランティアの方の訪問は毎月外来ホールで交流するようにした。四季の季節の花や果物、七夕の笹、ランチマット年賀状に塗り絵等出来る様に印刷したものをなど届けて下さり入居者さんに楽しんで頂いた。又ご家族様全員に郵送した。	閉業した医院の跡地にあり、長年地域医療に携わってきた事もあり、事業所としても常に地域との交流の機会を作るように努めてきたが、ここ数年はコロナ禍による制約が生じている。それでもボランティア(季節の果物を届けてくれたり、ランチマットを作ってくれたり…)の受入、レストランからの取り寄せ、などを行っており、可能な限りの交流を続けている。	今後、新設する保育所との交流の予定があると聞く。またこれまで、教会のコーラスボランティアや実習生の受入、銭湯への入浴同行なども行ってきたとの話もある。コロナ感染拡大の懸念が払拭されるまでにはまだ時間を要すると思われるが、収束後に向け再開を目指して徐々に構想を練り準備していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くのコンビニオーナーの方に利用者が福岡市認知症の見守りネットワークの申請をしている事を話しご理解を頂いている。1人で来られた時は連絡を頂ける様に電話番号を知らせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は、福岡県の感染発表状況をチェックし、重症者数、感染者数、重症ベッド使用状況などで判断した。結果、開催が出来なかったが利用者サービス、毎月実施している内部研修、施設内行事をまとめ各事業者郵送した。報告後の返信により意見サービス向上に生かすようにした。	コロナ禍にて開催を見合わせ、従来の参加者(民生委員・包括職員・ボランティアの代表者・訪問看護事業所・防災担当の方ら)に書面にて状況報告(サービス提供の状況、ヒヤリハット事例など)を行い、それに関する意見・要望・助言などをFAXでいただくという書面開催に替えていたが、コロナが落ち着きを見せていることでもあり、本年4月からは開催の再開を予定する。	開催を再開した折には、コロナ禍前よりもさらに充実した会議になるよう、出席者(利用者家族など)や開催日時、テーマの選定などの構想を練りなおして実現していただきたい。議事録は事業所内にて閲覧ができるようにしつつ職員も共有し、家族をはじめ関係者には送付するまでの手続をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染防止対策の為、福岡市のホームページの閲覧や通達が多くあり連絡を取る事があった。コロナ感染は続いており、スタッフ、入居者様抗原検査等実施を継続している。発熱や疑われる症状や発生時の受診の流れ、検査の流れ、相談ダイヤル等連絡体制が潤滑に流れるように等取り組んだ。	困難事例の相談、コロナ対策、諸報告書などの手続、空室などの情報共有などの対応でかかわりがある。生活保護の利用者のことで、区の保護課とのやり取りもある。行政や包括とコミュニケーションをとって協力体制を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会により入居者全員を拘束に該当しないか、また行ってないかチェックしている。現在身体拘束者はいない。3か月に一回は定期的にインターネット介護研修ジョブアカデミーにてオンライン研修を行っている又センサーや鈴などの利用も行い拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催、またカンファレンス時には、肉体的・精神的虐待やスピーチロックも含めて研修を行って理解を深め、拘束のない生活の実践に努めている。日中は正面玄関に施錠はしないが、離脱傾向が見られ、また不審者の出入の用心もあって、各フロアー(ユニット)の入口はオートロックとしている。	

R5.3自己・外部評価表(GHかけはし)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を中心に資料を通して知識を深めている。高齢者虐待チェックリストに基づき確認を行い日常の職員の声かけに不適当な発言や大きな声は聴かれぬか注意を促している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については資料を閲覧できるようにしている。身寄りのいない利用者は数名おり、その内の1名は成年後見制度を利用している。時折弁護士さんの訪問が有る。	現在成年後見制度を1名利用しており、後見人である弁護士の訪問がたまにある。研修や実務を通して職員の理解もある。今後、相談があるなど必要が生じた際に備えて、事業所にパンフレットは常備しており、また管理者主導にて適切な説明や対応ができるような体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改訂は必要時行っている。説明は解り易く行い契約書は1部ずつ家族と事業所でお互いに保管している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望を取り入れるために意見箱を設置しているが面会は感染状況により禁止したり短時間にや外部の交流も少なかった。家族とはスマホラインで動画を撮りメールしている	かつては面会も多かったようだが、コロナ禍にて家族の訪問・面会にはやむを得ず制限を設けており、電話やメール、LINEでのやり取りが中心になっている。事業所の通信(「かけはしニュース」)を不定期ではあるが郵送して家族に報告することで喜ばれている。職員は本人や家族の思い、希望を日頃から聴取する機会を設け、積極的に聞いて、それを共有のうえで実現しようと努めている。	コロナ禍の中で今後一層の充実を図る意味で、家族に対する独自アンケートの実施、家族会の開催なども検討してみたいかがでしようか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ感染対策のため全体の会議が開催できなくなった。これを補うため、代表者、管理者、その他管理職の者が職員の意見を適宜聴取し、気付きノートによっても様々な意見を吸い上げている。	コロナ禍にて定例の会議開催は控えているが、「気付きノート」を活用して、または現場でその都度、職員は利用者本位の取組に繋がるだろうと思われる事を自由に述べている。幹部職員も、話がしやすい雰囲気にも努め、提案や意見に対してもタイムリーに改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者が満床になり日々の業務が増えたため体制整備に努めている。給与面への反映も考慮している。シフト作成時は、希望休など個人の都合に出来るだけ配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用は、あくまで能力の程度、向き不向きを基準として行っている。中高年の職員が多く、外国籍の者もいる。一人ひとりの人となり、得手不得手などを尊重し、勤務を無理なく行えるように配慮している。	幅広い年齢層の職員が働いており、うち2名外国籍の方もいる。事業所として、職員の資格取得や外部研修参加にも前向きであり、スキルアップにも努めている。希望の休みやシフトなども考慮されていて、休憩時間・場所も確保されており、メリハリのある勤務ができる。職員は個々の能力や特技、得手不得手などを生かして、生き生きと仕事をしている。	

R5.3自己・外部評価表(GHかけはし)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症の方に対する接し方は職員との個々の関係によっても異なってくる(例えば、ある職員がある利用者をあだ名で呼ぶと、その利用者が喜ぶ等)が、本当に人権に触れるようなことがあったら、すぐに意見が出て、代表者及び管理者が、その都度注意している。	虐待防止や権利擁護、法令遵守、認知症高齢者に対する理解などについての勉強会(ジョブアカデミーによるオンラインでの研修および外部研修後の伝達講習)を定期的に行って職員の認識を深め、啓発に努めている。	人権関連団体の資料・DVDの貸し出しや、講師派遣などの活用など、研修の趣を変えるのも良いかと思います。事業所としての啓発活動への取り組みがなされることにも期待します。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加した職員が成果を他の職員に伝達するという方法を探ってきたが、コロナ感染防止のため滞っている。研修はインターネットによるジョブアカデミー介護事業所のオンラインにて担当者研修を行い資料閲覧にて外部研修を実施		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区・早良区のグループホームの情報交換会「いとの会」の会員となり、ネットワーク作りを行い講習会等を通じ、向上を図っていたが、コロナ感染防止のため滞っている。また、同対策として、県の施設支援に係る職員派遣コーディネーター事業に登録している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初サービスが開始になる時は不安が大きいので慎重に行っている。 在宅でのご本人の様子や関わっていた他の事業所などの意見も伺いきなりの変化に本人が戸惑わない様にゆっくり進めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は施設で職員がどんな関わり方をしてくれるのか不安を持っている。食事の好き嫌いや習慣、トイレの合図、衣服の調整、歩行状態等家族から多くの情報を聞きとるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	部屋を見学して頂きベッドの位置や自分の置きたい場所を決めて今迄の生活習慣が大きく変わらないようにしている。又ポータブルトイレの必要性があれば応じ歩行器の必要性等話し合っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事はして頂き、何でもやってしまわないように本当に必要かを検討してから介助している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族からの要望をお聞きしてそれに添う様に努めている。ご家族には本人との距離が出来ないように希望している事を連絡し伝えるようにしている。		

R5.3自己・外部評価表(GHかけはし)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大時は面会を制限したが現在は居住室以外で15分程度の面会を感染防止対策を行いながら実施している。スマホでラインができるご家族とはビデオにてお話ししたり動画を送りお姿が確認出来て喜ばれている。電話の出来る方は連絡をされている。	かつては、生活をして自宅に家族と一緒に一時帰宅や外泊をしたり、馴染みの人、知人らが訪問したりしていたが、コロナ禍のため面会や外出に制限を設けざるを得なくなっている。その中で職員は、収集している情報(昔の仕事や住まい、よく行った場所のことなど)から懐かしい話をしたり、電話や手紙で連絡を取り合うかたちでの支援を行っている。3ヶ月に1回訪問理美容を行っており、新しい馴染みになっている。馴染みの事柄との結びつきの継続は、刺激を誘発することにもつながると考えている。	コロナ収束の折には、もし昔馴染みにしていた店があれば理美容や買物、散歩していた場所を訪ねたり、以前暮らしていた家やその町並みなどを見に行ったり、という機会を、家族の協力を得ながら作ってみたいと思います。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファに3人掛けると隣同士で会話をしたり眠くなると肩を貸したりして睦まじくしている姿がある。日中は部屋に居る事が無くホールで過ごして頂く様にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了、退去してもラインで連絡あり近況のお知らせが届いている。施設で晩年過ごしたことが良い思い出になり生き方を学んだと話されるご家族がおられた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意見、希望を言葉で表現できない場合表情やしぐさで把握できるように努めている。要望を尋ね本人の気持ちを一番に考え添う様に意向に努めている。	本人の意向の聞き取りを積極的に行うが、難しい方が多く家族に確認、これまでの経歴からの掘り起こしなどにより、要望に沿えるように個別の支援を計画し実行している。見直しの際は、現場の職員の意見も聞き取って反映させる。個々のペースでの生活の把握に役立たせて、快適に過ごしてもらえるような意識をもって対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、環境についての情報を、家族、かかわったサービス事業所から出来るだけ把握するように聴き取っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りを中心に気付いたこと、記録確認をして日誌、気付きノート等、スタッフからの様子を通して心身の状態を把握するようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアに問題がある時は直ぐに必要な関係者と話しあい方法を考えている。現状に合ったケアに反映される様計画している。	各ユニットの計画作成担当者がアセスメントを行いプランを作成、ユニット会議(カンファレンス)により全職員が共有する。毎月モニタリングを行い随時および3ヶ月~1年ごとにプランの見直しをする。状態の変化があれば、いつでも介護の方向性を含め、プランの検討を行っている。	

R5.3自己・外部評価表(GHかけはし)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの総合ケア記録を残している。特に注意したい薬や処置の変更については申し送りがきちんと伝達される様に介護日誌に残している。出勤時は必ず目を通し情報を共有するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な衣類や日用品があればその都度家族に連絡して自分で買いたい嗜好品はセブン迄同行して一緒に買い物している。又、歯科受診や一般病院受診等家族の意向を伺い同行している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の浴場を利用できなくなり今年度はいけなかったが希望の有るセブンへの買い物に同行している。感染拡大時は職員が代行している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望している病院を受診している。かかりつけの訪問医との連絡や紹介状の手配を行いながら適切な医療を受けるように配慮している。	希望があれば以前からのかかりつけ医の継続も目田だが通院介助は家族にお願いをする。事業所の協力医療機関からは訪問診療の他、緊急時対応など丁寧に支援を受けている。他科・専門医および歯科受診は原則家族に通院介助してもらうが、事業所からお連れすることもあり、その際は家族に随時連絡報告している。訪問看護(週1回訪れる)との連携もあり、日々の健康管理や医師との連絡相談を行っている。家族の安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に毎週来て頂き個別に健康管理してもらっている。細かい介護の方法や処置などに対応アドバイスを頂いている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこれまでの情報提供を細かく行い、適切な治療につながる様に努めている。治療後は早期に退院できるように連絡調整、カンファレンスを行い施設での介護につながるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、保証人、医師、看護師と本人の望む治療や終末を話し合っている。施設内で出来る医療をかかりつけ医と話し合い24時間連絡が取れるように望む終末が過ごせる様にしている	看取り指針に基づき、利用開始(契約)時に将来の看取りに関しての意思確認を行う。事業所としては希望があれば最後まで支援を行うもので、ここ1年間にも1例の看取りを行っている。ターミナルケアの研修も行っており、職員にも理解がある。医師や訪問看護は24時間対応しており、チームによる医療対応を通して、家族の求めるケアの実践に取り組んでいる。	

R5.3自己・外部評価表(GHかけはし)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応を内部研修を通してマニュアルは準備している。急変時は自己判断だけでなく直ぐ応援を依頼し初期の処置やバイタル測定、医師への連絡、家族、病院、社長等、連絡体制を取るようになっている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を夜間の人員が薄い時の状況に合わせて訓練している。台風時のベランダや窓ガラス等建物全体の危険箇所を確認し、利用者の安全を第一に、事前に点検している。室見川が氾濫した場合施設も浸水する可能性をハザードマップや地域の方より指摘されているので情報が入るようにしている。	夜間の火災を想定して、年2回訓練(避難誘導や水消火器・警報器などの取扱方法を理解して実践したり、避難経路や場所を確認したり)を行っており、うち1回は消防署の立ち会いがある。職員は日頃より、緊急時対応マニュアルに基づき、様々な災害(水害を含めて)に対する理解を共有している。備蓄物も確保しており、期日管理も適切に行われている。	防災訓練に際して、家族や地域住民の出席を促してみたいか。コロナの状況もあって参加は難しくても、まずは声掛けや案内をして、事業所として前向きに取り組んでいる事をアピールする必要もあるのではないかと考えます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過干渉せず自由に過ごしてもらいように何をしたいですか?したい事は有りませんか?と声掛けを行っている。又利用者同士にトラブルは起きていないか雰囲気や言葉使い等気にかけている。	研修の中で、プライバシー保護や接遇、言葉遣いに関して学んでおり、職員は理解を共有している。トイレのドアの開閉や、入浴時の過度な露出を避ける介助など、その都度細かく指導しており、職員は留意して取り組んでいる。写真などの肖像の利用も含めた同意を家族からいただいている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を聴く様にしてどのような思いであるか何がしたいと望んでいるか出来るだけ思いを汲み取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりや規則を優先しがちになっているが、利用者が自ら声を上げて何がしたいとの声は少ない。写真集や新聞など提供したり懐メロを聞いたりテレビを観たりしているが、出来るだけ利用者の意見や希望を取り入れたい		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでいるが季節に合わない服を着ている時は手助けして毎日の着替えなどアドバイス支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が出るメニューを考え栄養バランスのとれた献立を作成し買い物している。食事は施設内で調理しており温かい出来立てを提供し残される入居様は少ない。毎月1日は赤飯と決めて提供している。 食後のお膳や茶碗拭き等声かけして一緒に行っている。	献立の作成、食材の買い出しを含め、事業所の職員の「手作り」の食事を提供する。入居者の要望(嗜好)、さまざまな形態、アレルギーなどにも対応できる。敷地内で収穫した柿・梅・イチジク・ネギなどが食卓に並ぶ事もある。テーブルやお盆、食器の拭き上げなどを職員が利用者と一緒にやっている。行事の際には特別なメニュー(毎月1日は赤飯…など)を用意する。職員は見守りの立場でかわわり、食事が安全で楽しい時間になるような支援を行っている。なお、衛生面もチェックリストを活用して徹底している。	

R5.3自己・外部評価表(GHかけはし)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食べる量を増減している。水分は自分で飲まない利用者様はチェック表を作成し脱水や熱中症にならないように注意している。又、夜間の水分補給にはボトルや吸い飲みを準備している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは重要である事から自分で出来ない入居者様は洗面所まで付き添い手順を促している。義歯は細菌が発生しないように洗浄、ポリドントによる消毒、ケースへの保管を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を促している。尿失禁の有る方は早めのトイレ誘導の声かけを行っている。夜間は転倒の可能性もありそれぞれのADLに合わせた方法で行っている。	職員は排泄チェック表を活用してパターンを把握、自立排泄を促しながら、声掛けや誘導、介助を行い、併せて不衛生な状況にならないように、プライバシーに配慮しながら気配り、目配りを行っている。職員は状態の変化については共有しており、失禁が減るなど改善が見られたケースもある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは利用者全員の課題である。便秘傾向のある利用者様は牛乳や水分の補給を促している。又便座に腰掛けた時、腹部のマッサージなど行ったり、数日続く便秘は緩下剤、座薬など個人に応じた方法でコントロールする。1名は水分量を毎日記録している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日の設定はしているが体調に合わせて入浴して頂いている。入浴時は身体のチェックに大切な事から着脱や洗身を介助している。	各ユニット(2階はユニットバス、3階はレトロ風)にて個浴。基本的には週2回だが、希望があればそれ以外の対応も可。浴槽を跨げない方が多く、どうしてもシャワー浴中心となっている。拒否のある方にはタイミングを見計らって声をかけなおすが、頑固な方もいて苦慮している。脱衣室に暖房を完備する。それぞれのペースで入浴を楽しむとともに、コミュニケーション、情報交換、皮膚観察にも役立っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も体調がよくない時は午睡して頂いている。しかし1時間以上睡眠を取ると夜間の入眠に差し支える為昼夜逆転しないように気を付けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している内服は処方箋で確認、誤薬がないように又一人一人のケースで管理、服用後は副作用の有無のみ忘れの無いようにサインを行っている。又、空袋を残し問題がある時は分かるように数日間残している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例年は季節の変化の行事を取り入れ全員が集まって催しを行っているが今年度はコロナ感染対策の為中止になった。しかし気分転換だけでもと食事は外からお弁当で楽しんだ。		

R5.3自己・外部評価表(GHかけはし)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出がコロナ感染防止対策により自粛された為出来なかった。	コロナ禍にて制約が生じており、用心のために控えている状況にある。短時間での散歩、施設内での外気浴(1階の裏庭、3階の中庭などで、ティータイムを楽しむ)、病院受診(通院)程度の外出程度に限られているが、コロナがやや落ち着いた頃には状況を考慮しながら、ドライブ(愛宕神社や百道など)をした、と聞く。状況が変われば外出を思い切り楽しませたい、と職員は思っている。	コロナ収束の折には、外出支援を、できれば家族や地域の支援を仰ぎながら、楽しく行っていただくことを期待したい。願わくば、来年度はちょっとした外出行事も年間計画に入れられるような状況になると良いのですが。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額のお金を本人が管理するのは難しい。管理者が本人、家族の同意の元、少額のお金を預かり税金を納めたりしている。コンビニの買物や神社でお賽銭を上げる時などは、その場で本人にお金を渡して本人に使ってもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時、連絡をしてほしい希望があればすぐ対応している。手紙も要望があればすぐ出せる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は担当を決めて実施。コロナ感染源にならないように今年度は消毒や換気が重要と特に気を付けた。お花の好きな利用者には季節感が出る様に施設に植栽しているお花を飾った。	もともと病棟だったところを改装しており、2・3階がそれぞれユニットになっている。造りはやや異なるが、コの字型にホールと居室が配置され、2階にはスタッフルーム、3階には中庭があり、日当たりは良い。床にはパネルカーペットが敷き詰められている。家庭的な雰囲気の中、ゆったりと過ごすことができる。臭いや音、温度にも職員は絶えず注意をしている。季節に応じた作品を展示することで、季節も感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに出て来られたら自分のお気に入りの場所が決まっております利用者同士のトラブルはあまりない。ベランダはお花を植えており季節を感じる事が出来る。自分の部屋は個室の為一人で過ごしたい時は自室で過ごしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅大切にされていた写真や手紙、衣類、飾りなどを持参している。壁に飾ったりいつでも見られるように整理整頓を手伝い居心地良く自室で管理している。	もともと病室だったところを改装して、その雰囲気は残っている。居室によって洗面所やトイレが設置された部屋、ビニールタイルや絨毯を敷かれた部屋など、趣が違う。ベッド・カーテン(一部)は備え付けで、仏壇・テレビ・筆筒などの使い慣れた物や、写真・絵画などをそれぞれ自由に持ち込んでいる。職員は、日頃の掃除に加え、安全に移動できるようなレイアウトにも気を配っており、落ち着いて居心地よく過ごせるような配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、滑りにくい床、段差の解消等安全な環境で車椅子や歩行器使用でも過ごせる様にしている。		